令和２年度　家庭ごみ有料化の検証結果について

岡谷市 市民環境部 環境課

１．はじめに

岡谷市では、「ごみの発生抑制とリサイクルの推進」、「排出量に応じた負担の公平化」、「環境やごみに対する意識向上」を目的として、平成２２（２００９）年度に『家庭ごみの有料化』を導入しました。

令和２年度には、導入から丸１０年が経過した有料化制度について、「ごみ減量」、「資源物の分別収集」、「違反ごみ」、「ごみ処理費用」などの状況を振り返り、より良い制度を継続するための検証と市民・関係団体への意見聴取を行いました。ここに令和２年度の検証結果を報告するものであります。

２．検証の経過

検証資料「家庭ごみ有料化の検証」　作成

検証内容の精査、収集実績等のデータ収集

「家庭ごみ有料化の検証」への市民意見の募集

市ホームページで意見を募集しました。

記事「家庭ごみ有料化に関する検証を行いました」掲載（令和２年９月）

関係する団体等の意見聴取

環境関係団体の会合において、資料「家庭ごみ有料化の検証」に基づき、検証内容を説明。

家庭ごみの有料化やごみ処理、３Ｒ推進などの施策について、意見聴取を行いました。

・令和２年度 第１回 環境審議会　　令和２年８月２４日（月）

・令和２年度 環境市民会議おかや 第２回 臨時役員会　　令和２年９月１６日（水）

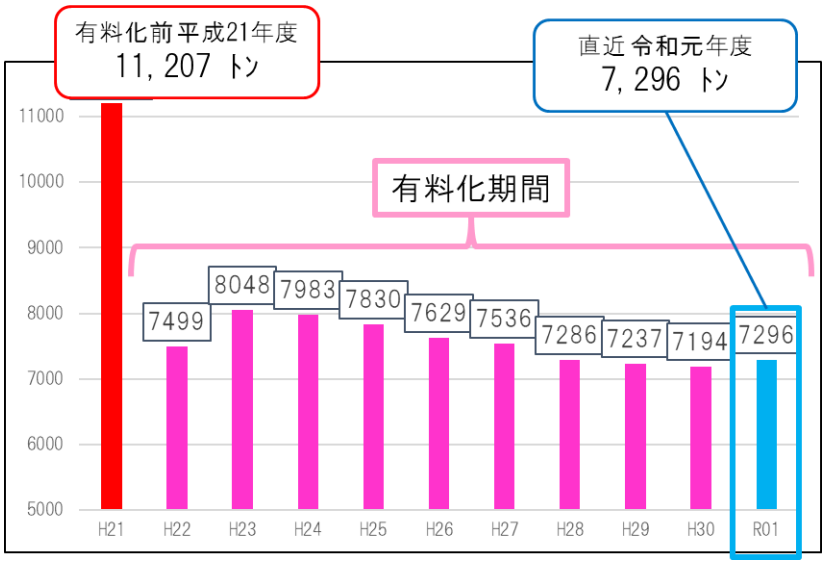
・令和２年度 岡谷市衛生自治会連合会 第３回役員会・会長会　　令和２年９月１７日（木）

・令和２年度 第２回 環境審議会　　令和２年１０月１５日

３．家庭ごみ有料化の検証［概要］資料より抜粋

【ごみ減量の状況】

○燃やすごみの減量状況



・有料化初年度の**Ｈ２２年度の燃やすごみ量は７，４９９トン**

有料化前年のＨ２１年度と比べて**約３３％の減量**を達成しました。

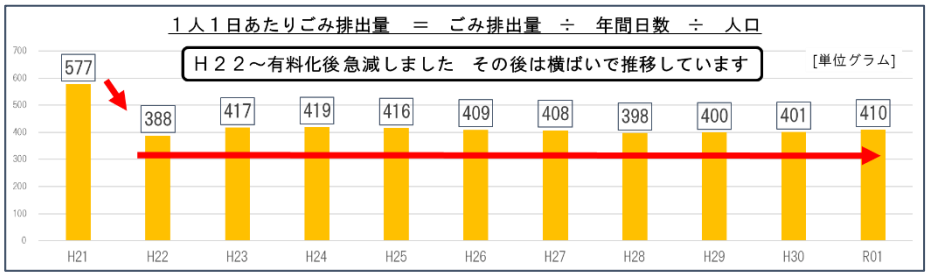
・Ｈ２２年度からＲ元年度まで**１０年間の平均は７，５５５トン**

Ｈ２１年度比**３２．６％減**です。

◎有料化によりごみ減量への効果が十分にありました。

【ごみ量原単位の状況】

○市民１人１日あたりのごみ排出量（＝原単位）[有料化の対象：燃やすごみ・埋立ごみ]

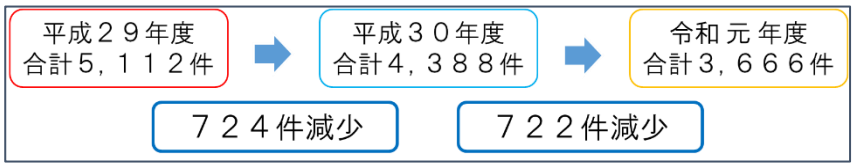


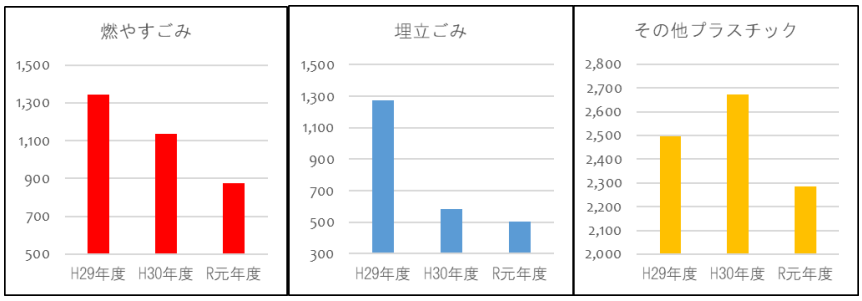
・有料化に伴って、原単位が大幅に減少しています。
・有料化の開始から１０年間ほぼ横ばいで推移しています。

◎有料化によって、市民の排出抑制につながっています。

【正しい分別の徹底　違反ごみの状況】

○ごみ・資源物違反件数の状況



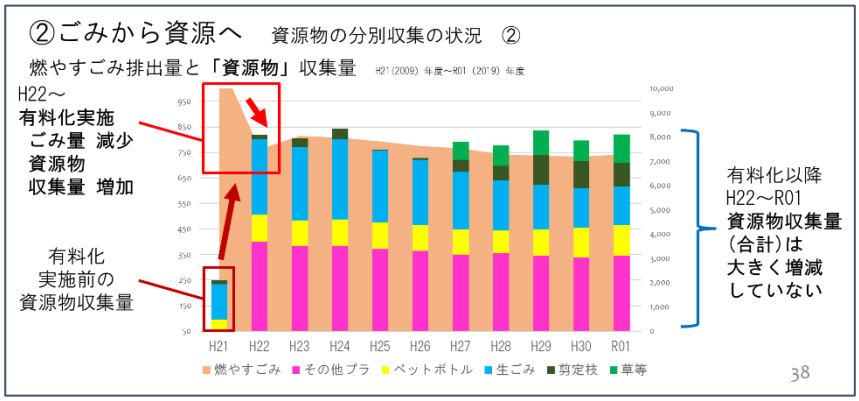


・近年では、毎年７００件程（燃やすごみ・埋立ごみ・その他プラスチックの合計）違反件数が減少しています。

◎市民の皆さんが分別やルールを“まじめ”に守っていることがわかります。

【ごみから資源へ　資源物の分別収集の状況】

○燃やすごみと資源物収集量の変化



・Ｈ２２年度には、有料化に伴い、その他プラスチックの分別収集を開始するなど、ごみが減り、資源物が増加しています。

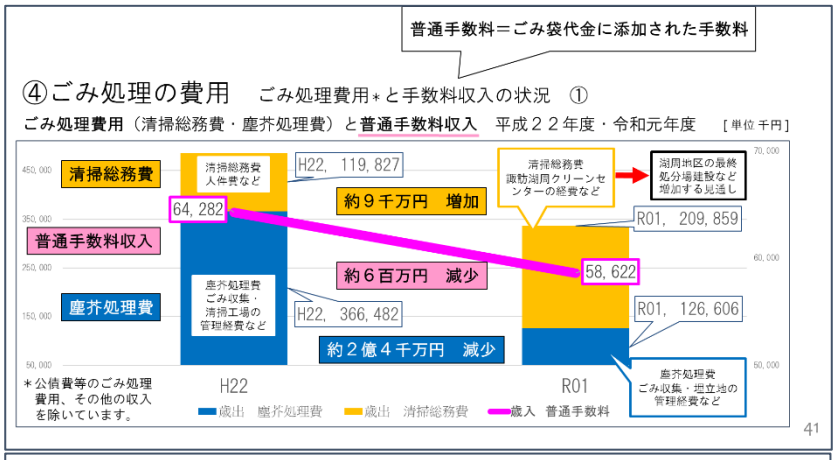
◎燃やすごみが減少し、リサイクルの流れが確立されました。

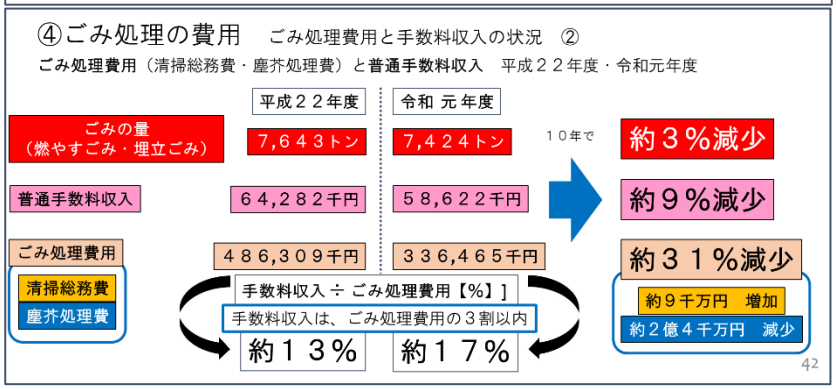
○資源物分別収集の状況について　（資源物分別回収促進事業の補助対象を除く）

・資源物収集の合計量は、この１０年間で大きな増減がありません。
・品目ごとの収集量は、近年では「生ごみ」（食品残渣）の減少が著しく、草・せん定枝（燃やしていないもの）が急増しています。

【ごみ処理の費用　処理費用と手数料収入の状況】

○ごみ処理費用（清掃総務費・塵芥処理費）と手数料（普通手数料）収入比較　H22 年度・R2 年度





◎ごみ処理費用が減少しています。

計　約１億５千万円　減少

内訳）

清掃総務費　約９千万円　増加※

理由：湖周組合負担金の発生

※最終処分場の建設費など今後も増加見込

塵芥処理費　約２億４千万円　減少

理由：旧清掃工場の閉鎖(H25)

◎手数料収入も減少しています。

計　約６００万円　減少

◎手数料が処理費用に占める割合＊

Ｈ２２年度　約１３％

１０年経過　↓

Ｒ０１年度　約１７％

あまり大きな変化がない

＊「処理費の３割くらい」導入時の目安

⇒当初から現在まで下回っている状況

４．岡谷市の家庭ごみ有料化の効果

平成３０年度の状況「一般廃棄物処理実態調査」（環境省）より

①ごみの減量化　　排出量の変化　有料化開始前年（平成２１年度）と比較して

◎ 燃やすごみ（可燃物）

Ｈ２１　１１．２０７トン → **３６％減** → Ｈ３０　７，１９４トン

◎ 埋立ごみ（不燃物）

Ｈ２１　２５２トン → **５０％減** → Ｈ３０　１２５トン

②市民１人１日当りのごみ排出量（ごみ排出量原単位）燃やすごみ＋埋立ごみ＋資源物

○岡谷市

Ｈ２１　９５２グラム → **２４８グラム減** → Ｈ３０　７０４グラム

○長野県

Ｈ２１　８８１グラム → **７０グラム減** → Ｈ３０　８１１グラム

長野県はごみの少ない県「日本一」　平成２６～３０年度の１人１日当りのごみ排出量ランキング

長野県内での少なさ　１９市中 岡谷市５番目　　諏訪地域内での少なさ　６市町村中 岡谷市２位

③リサイクル率　ごみの減量化とともにリサイクル率が上昇（平成２１年度 ⇒ ２２年度 ※）

Ｈ２１　２３．１％ → **７．５ポイントの上昇** → Ｈ２２　３０．６％

※近年では、資源物をボックス回収する民間事業の普及により、リサイクル率の正確な把握が困難となっている。

５．まとめ

家庭ごみ有料化が岡谷市にもたらしたもの

岡谷市では、ごみの減量化を図るため、市民や衛生自治会の協力の下、平成２２年度に『ごみの発生抑制とリサイクルの推進』、『受益と負担の公平性の確保』、『環境やごみに対する市民の意識改革』の３つを目的に掲げ、家庭から出る燃やすごみ（可燃物）と埋立ごみ（不燃物）の有料化を開始し、さらにリサイクルに取り組んできた。

家庭ごみ有料化により、市民がごみ排出に伴う費用負担を軽減するため、ごみを減量しようという動機付け（インセンティブ）が働き、使い捨て商品はなるべく買わないことや、長く使えるものを買ったり、過剰包装は断るなど消費者の意識も変化してきている。

また、ごみの排出量に応じたごみ処理費用の一部を負担する仕組みにより、「受益と負担の公平性」と「排出者による責任」が明確となり、ごみを減らすだけでなく適正な処理を意識するきっかけとなったほか、市のごみ処理施策に要する財政負担の軽減が図られている。

その結果として、燃やすごみで約３６％、埋立ごみで約５０％の減量を達成し、市民１人１日当りのごみ排出量（原単位）が２４８グラムも減少したほか、リサイクル率が飛躍的に向上するなどの大きな成果を得ることができた。

一方、有料化とともに開始した「その他プラスチックの分別収集」など、資源化の取り組みは、ごみの減量化を促進するだけでなく、市民の環境意識を醸成し、３Ｒ（スリーアール：『リデュース（ごみの発生抑制）』、『リユース（再使用）』、『リサイクル（再生利用）』）の実践など、モノの延命利用にもつながっている。

このようなことから、本市の「１人１日当りのごみ排出量」を比較すると湖周地区で最も少なく、家庭ごみ有料化は、ごみの減量化、リサイクルなどの進展から環境負荷の低減、ひいては地球温暖化の防止に貢献することにより、循環型社会形成の推進に寄与している。

市民の皆様へ

有料化導入から１０年間、岡谷市民一人ひとりが、ごみの減量化、リサイクルの推進にご協力いただいたことから、今日の成果に至っているものであることに感謝申し上げますとともに、引き続き、循環型社会の形成へ向け、３Ｒ推進など市民と行政が一丸となって取り組んでいくことをお願い申し上げます。